

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100611		
法人名	有限会社 メディカル葉山		
事業所名	よなわグループホームやすらぎ	ユニット名	
所在地	長崎市岩屋町25-7		
自己評価作成日	平成25年5月15日	評価結果市町村受理日	平成25年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年6月13日	評価確定日	平成25年8月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームへ転換開設して2年を経、内容も充実しつつあります。当グループホームでは、1階に当事業所代表が院長の、よなわ医院があり、常時看護職員が配置されております。24時間、看護・医療連携が整っており、利用者様・ご家族様に安心して頂いております。また、交通の便も良く、道ノ尾バス停から徒歩5分、郵便局・学校・大手スーパーも近く、生活するのに、とても便利です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来、“グループホームらしさ”を職員全員で検討し、小さな取り組みをコツコツと続けてこられた。前回の外部評価以降、職員の勤務シフトを調整し、週3回の入浴が可能になり、季節に応じた菖蒲湯なども楽しまれた。職員も一緒に食事をするようになり、一緒に会話をしながら“楽しい食事”の時間が作られている。看護・介護の立場からのアイデアも多くなり、トランプ等のレクリエーションを楽しむ機会も増えており、介護計画にも“楽しみ”や“役割”が着実に増えてきている。管理者のお人柄もあり、職員の意見を大切にしたチームワーク作りが続けられ、教育担当の看護師を中心に“倫理観”を根付けるための教育も行われている。職員の入れ替わりもあり、系列の施設からの応援を頂きながらの日々を過ごされているが、今後も人員体制を整えると共に、日々の“ゆとり”を増やせる方法の検討も前向きに続けているホームであり、法人全体のマニュアル作り等にも取り組まれていく予定にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の提示や意識づけは、出来ている。又、申し送りの後に出勤者全員で声を出し確認し合う所までは出来ているが、まだ努力中です。	「家庭的な雰囲気の中で安心した生活の実現を目指します」と言う理念のもと、ホームらしさを大切に家庭的な雰囲気作りに努めてこられた。食事の時も職員も一緒に食事をされる姿が見られている。看護師から倫理観も含めた職員教育を続けると共に、“ゆとり”の時間を持てるようにレクの機会も増えてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には、難しいが、散歩時や外来受診時には、地域の方との挨拶やコミュニケーションを図っている。	ホーム前が通学路でもあり、散歩時には学生の方や地域の方と挨拶を交わしている。毎年恒例の夕涼み会では、スイカわりやしやぼん玉、花火などを地域の子供達と一緒に楽しまれた。長崎のホーム火災もあり、地域の方からも「何かできることはないですか」と言うお言葉を頂き、話し合いも行われた。	小中学生との交流をご利用者も喜ばれており、今後も交流の機会が持てるように学校に挨拶に行く予定にしている。また、ホームの行事等に地域の方が参加できる機会を増やすと共に、公民館活動への参加ができるように情報収集をしていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の方々には常々、話をして理解をもらえる様努めているが、地域の人には、まだ理解して頂くまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、回数を重ねているがサービス向上までには、至っていない。	地域包括の所長からの紹介もあり、認知症サポーターの方に参加して頂くと共に、会議録を掲示し、参加していない職員や家族にも閲覧して頂いている。25年3月の会議は系列のホーム等も合同で開催し、火災対策の話し合いが行われた。今後も、より多くの意見を言って頂く時間作り(会議のあり方)を検討していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	色々と相談に乗って頂いたりと対応して頂いた。	会議には地域包括の所長(毎回)や市の職員(年1回)の参加もあり、ホームの事を理解頂いている。すこやか支援室から介護相談員の方も来訪して下さっている。災害対策での指導を頂くと共に、課長とセンター長が市の窓口に出向き、相談等に応じてもらうなど、市の担当者の方が常に一緒に考えて下さる姿勢に感謝している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回は、ミーティングを開き話し合いの場を設けている。又、見守りが必要な方には、ナースコールを使用したり声を出して呼んでもらう等して身体拘束のないケアに取り組んでいる。	職員への研修が行われ、院長先生からの講義も行われている。身体拘束を行わないケアに努めており、家族にもホームの方針を理解して頂いている。毎月、身体拘束解除に向けての委員会が行われ、身体拘束をしないための意見交換が続けられている。ご利用者の喜怒哀楽にも日々向き合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来るだけ講習会には参加しているし、また職員間でもミーティングの時間を使って周知徹底している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な事例が少なく学ぶ機会も少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を取り交わす時に重要事項説明書を読み確認しながら分かりやすく説明して疑問点が」あれば、その都度伺いながら納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や入居の細かい要望は、その都度対応している。また意見箱も設置している。	管理者と職員が中心になり、家族の面会時などに「何かありませんか?」と意向を尋ねており、面会時の意見交換も行っている。ご利用者から「名札を付けてほしい」と言う希望も聞かれ、ミーティングで話し合い、名札をつける事になった。「換気してほしい」などの意見も家族から頂き、日々実践が続けられている。	お茶会や食事会等の行事を増やし、家族に暮らしぶりを見て頂くと共に家族と一緒に過ごす機会を増やしていきたいと考えている。家族同士が交流する機会も増やしていく予定にしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム内でミーティングの時間を設けている。	グループホームらしさを理解し、暖かさや安心を届けるための取り組みが続けられている。裁縫が得意、レクが得意、お話を引き出すのが得意など、個々の職員のお力を発揮して頂くと共に、委員会活動も行われ、看護・介護の立場からのアイデアも増えている。職員同士のミーティングで行事やケアなどの意見交換を続けている。	職員の入れ替わりを経験しているが、職員の意見は豊富で、看護師のリスクマネジメントに関する視点も職員間で共有し、日々のケアに活かされている。今後は他系列のホームなども情報を共有し、そのアイデアを全館共通にマニュアル化していく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には手当を、研修参加者には研修費を、介護職員交付金については、全額職員へ年に2回に分けて、配布している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらの資格取得の支援制度あり、介護福祉士の複合連携事業として他事業所と連携した外部研修を年間通じて実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模複合連携事業の助成を利用し3ヵ所のグループホームと連携し1年間を通じて計画的に各テーマを決めて、外部講師を招いての研修により同業者との交流、相互訪問の機会を得て質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に当たっての本人・家族のニーズに応える事が出来るかの検討会を行い、入居後は看護サマリーやカードックスを利用し、皆で情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の要望を傾聴し、利用者様の安心・安全のために、なるべく頻回に来所して頂くようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の医療機関を連携して、安心した日常生活を営んで頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、テーブル拭き等、出来るだけ参加して頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者や家族の要望で、家族でも支援できることを家族が行う事により、利用者や家族との時間を作り絆を深めて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人等が、来所され帰られる際には再来所を促している。	ケアマネを中心に馴染みの関係の把握を続けている。近所の方や同僚がホームに遊びに来られたり、お友達が年賀状を下される方もおられ、絵手紙や年賀状を大切に保管されている。馴染みの美容院に出かけたり、お正月に自宅で家族と過ごされたり、馴染みの場所で外食される方もおられる。	自宅の事を気にされる方もおられる。今後も引き続き、馴染みの場所(自宅も含めて)の現在の写真等を撮り、ご本人の安心に繋げると共に、ご本人の思い出に呼びかけていきたいと考えている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士が集まって、食事を摂る様に努めている。又、レクリエーションを計画して、部屋にとじ込まない様に促している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族からの連絡に応じて相談や、支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に沿った支援を行なっている。家族との協力を得ての支援の実行。	食後や入浴時、居室を訪問した時など、ご利用者とお話をするようにしており、表情やしぐさも丁寧に観察するように努めている。夕方のレクで回想法も行われ、生活歴を把握する機会になっている。ご本人の混乱にも寄り添い、記憶を整理するために写真を見て頂きながら説明を続ける等、ご本人が安心できる支援を続けている。	ご利用者個別の思いを把握していく必要性を職員も理解している。今後も人員体制を整えていく中で、更にご本人の思いをゆっくり聞ける時間を増やしていきたいと考えている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とのコミュニケーションから情報収集に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の利用者の見守りを棟して心身状態や一日の過ごし方を観察している。また、利用者が自分で出来る事をして頂き現状で有する力を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のその時のADLに応じ本人・家族・ケアマネージャー等と話し合い介護計画を立てている。	小さい頃の遊びや仕事内容等も把握しながら、ケアマネが中心となり計画を作成している。ミーティングで情報共有し、職員全員でモニタリングを行っている。家族の意向も丁寧に確認し、読書・新聞購読などの趣味などを含め、生活歴を大切にしたい計画となっており、医療面や転倒予防などの視点も盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスを用いて、利用者の情報を共有し統一した介護をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の際、座席を利用者様の希望に添えるように努力している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状では、まだまだ取り組みが不十分。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同伴で受診して頂く。同ビル内での医院は、職員付き添いで受診している。	毎朝、院長先生がホームを訪れ、ご利用者の様子を診て下さっており、ご利用者も楽しみにされている。1階のよなわ医院の受診は職員が行い、家族が受診介助された場合も含めて、情報共有ができています。ホームの看護師が点滴等の管理も行い、服薬内容も含めて看護師との情報交換が更に増えてきています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常に配置しており、健康管理や状態変化に応じた支援を行なえる様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退所後の在宅での相談や、生活の出来るまでの準備もできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から、家族と話し合いを持ち入所となっている。利用者様の症状など常に家族に連絡している。	「ここで最期まで」と願われる方もおられる。医療処置が必要な方も多く、看護師が交代で勤務し、24時間の連絡体制もできている。主治医への報告も細やかに行われ、食事量の増加に伴い点滴も減ってきている。夜勤時もケアプランを確認する事でケアの共有化が図られている。この1年で3人の看取りケアが行われ、家族も一緒にケアに関われるようにしており、精神誠意のケアが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月一回のミーティングにて利用者様の急変や事故について話し合っている。応急処置等のプリント配布をして、勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の避難訓練を実施している。火災消火器の位置、避難経路は、把握している。地域との連携もとれている。	長崎市でプロジェクトチームが立ちあがり、ホームでも毎月防災訓練を行うようになった。非常災害装置の点検業者の方に具体的な避難誘導の仕方の指導を頂き、職員全員が消化器の取り扱いを体得しており、今後はご利用者と一緒に消火器を使った訓練を行う予定にしている。災害に備え、飲料水・カップ麺・お粥等を準備している。	

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重・利用者様・ご家族に対して言葉かけも慎重に心掛けている。接遇マナー研修にも参加する。	ミーティングや安全委員会の中でも、ご利用者の尊厳や個人情報管理についての話し合いが行われている。繰り返しの言動が見られる方も、原因となる心理に目を向け、対応の方法の検討が行われている。プライドを傷つけないように言葉遣いへの配慮も続けている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面の中で思いや希望を言ってもらえる様に支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の業務に追われて、ゆっくりと利用者様のペースに合わせてすることがまだまだの様。利用者ができる事もやってしまうところがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	食事やおやつ時等への誘導の際は、髪を整えたり洋服を整えたり支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房がある為、一緒に準備、後片付けもできていない状況。おやつの中には、内容により、飲み物を考え、提供している。	職員も一緒に食べられており、“楽しい食事”の時間となっている。同じフロアの厨房で委託業者の方が3食とも手作りをされており、季節の行事等に合わせた献立も作られている。残食確認も行われ、毎月の給食委員会で献立などの希望が伝えられている。ホットケーキと一緒に作る機会もあり、今後も継続していく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、飲水量の記録を取っている。栄養士によりカロリー計算されており、栄養バランスもしっかり摂れている。一人一人に合った食べやすさにしており、好評です。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る人は声掛けを勧める。声掛けを拒否する人にも何度か積極的に行い、できる事を考える。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	医療的に尿測の必要のある方は、ポータブルトイレです。入所時に留置カテーテルをしていた方が、きめ細やかな対応で、抜去し、ポータブルトイレでしている。本人も尿意の訴えあり。	トイレでの排泄を大切にされている。職員は日々の様子を記録し、ご利用者の排泄感覚を把握するように努めている。パットの種類も個別に検討し、安心布パンツを着用されている方もおられる。ご本人の尿意の訴えをしっかりと受け止め、その都度のトイレ誘導が丁寧に行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便表を作成し、排便パターンを知る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	やすらぎ②の浴室を使用するようにして見守りの利用者がゆっくり入浴時間を楽しめるようになった。昨年入浴が週2回だったが、本年度より、週3回になり、皆さん喜ばれている。	職員の勤務シフトを調整すると共に、介助が必要な方と自立されている方を分け、両ユニットの浴室を上手に活用する事で、週3回の入浴が可能になった。ご自分で洗身される方もおられ、おむつ使用の方は毎日の陰部洗浄も行われている。入浴時は職員との会話を楽しまれており、季節に応じて菖蒲湯なども行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様に、寄り添って、お話等、聞き相手をしている。どうしても眠れない方は、院長に相談して指示をもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ずナースが在勤しているので不明な点は質問するようにしている。また、服薬時、薬を確実に飲んだか、見届ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い(洗濯たたみ)を実施している。野菜の皮むき等、以前はして頂いていたけれど、現在はしていない。また、外出の機会を増やしたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	まだ不十分な点が多い。	1階のよなわ医院に受診した帰りに、薬局まで一緒に出かけている。家族からお小遣いを預かり、西友で買い物される方もおられ、仏前の花等を買われている。季節に応じて、あぐりの丘でのコスモス見学や住吉神社滑り市大神宮へのお参りにお連れしている。通院介助の帰りに家族と外食を楽しまれる方や本を買いに行かれる方もおられる。	今後も引き続き、職員全員が外出する事の大切さを共有し、日々の生活の中で散歩や買い物の時間を作って行く予定にしている。職員体制を整えると共に、系列施設の方とも協力して、車いす利用の方も一緒にドライブやお花見を楽しんでいきたいと考えられている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの利用者に応じて、お金を所持してもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があった時は、対応している。又、利用者からの希望があった場合、電話の対応もしている。家族からの手紙やハガキ等も出して頂くように支援していこうと思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の植物や定時物を飾ったりしている。玄関・洗面所にも花を飾っている。	家庭的な雰囲気作りを続けており、季節の壁飾りやお花が飾られている。明るいリビングにはソファやテーブル等が置かれ、ご利用者の状況に応じて配置も変えており、リビングで過ごされる方も増えている。加湿器を3カ所に設置し、ノロウイルスやインフルエンザ等の予防に努めると共に、排水関係や設備の備品が老朽化している物は、適宜取り替えの検討も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	前は、テーブル1つで6人座りでしたが、テーブルを1つ増やして一人一人のスペースが広がった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、好みに合った使い慣れた、物を配置して頂いている。	入居年数と共に、次第にご利用者個々の居室になってきている。大切な仏壇やお位牌、写真等を置かれている方や、本棚や趣味の本も持ちこまれている。お仏壇にはお供えのお花を買われ、毎日、お水等も供えられている。ベッドで過ごされる方には見やすい位置に時計やラジオを置き、ベッド上でのリハビリも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には分かりやすい表示の表札があります。		

事業所名: よなわグループホーム やすらぎ

作成日: 平成 25 年 9 月 15 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	季節ごとの花見や、行事、外食など外部との接点を多くして、季節感を感じていただけるようにする。	外食の機会を増やし、今まで外出できなかった車椅子の方たちも外出できるようにする。	バイクング、季節ごとの花見をととても喜んでいただいたのでより多くの方が外出できるよう、行事係りとレクレーション係りに皆が属して一人一役を作り、取り組んでいく。	3 ヶ月
2	23	入居者の生活歴を把握し、個々に応じた対応ができるようにする。	職員全員が情報収集に努めて、入居者が何を求めているかを考え、サービスに繋げていく。	カードックスと介護記録の充実を図り、情報を密にして全員で共有する。また常に寄り添って、話をゆっくり傾聴する。	3 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月